



産学連携、地域科学技術等に関する調査 研究について

2019年12月9日

第12回政策研究レビューセミナー

文部科学省 科学技術・学術政策研究所

第2調査研究グループ 総括上席研究官 堀田 継匡

①産学連携と大学等発ベンチャー

スピード感を持ち、機動的又は試行的に社会実装に取り組むポテンシャルを有する大学等発ベンチャー等ベンチャー企業の創出・育成、知的財産の社会全体での有効活用等を促進する産学連携の仕組み等の調査研究を、実施。

②イノベーション人材の流動

我が国の科学技術イノベーション人材の流動等とイノベーションに関する理論的・実証的な調査研究を実施。

③地域科学技術

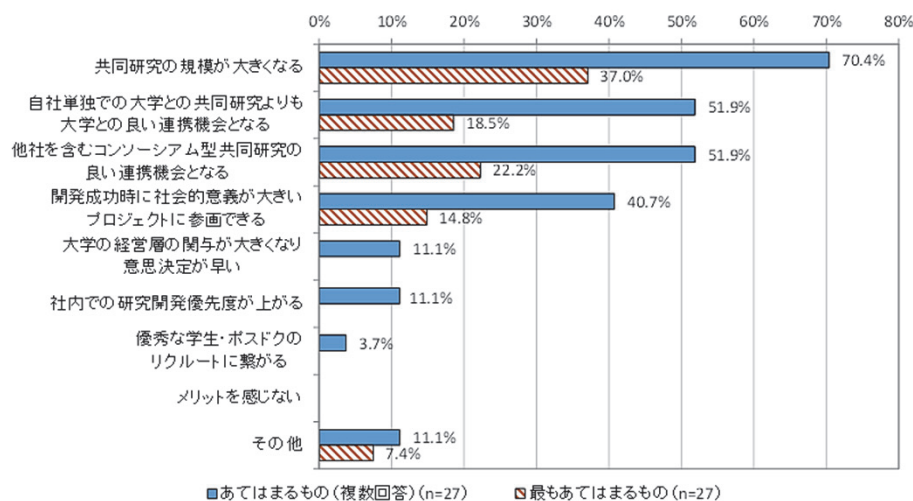
地域に自律的・持続的なイノベーションシステムが構築されるよう、関係府省とも連携しつつ地域科学技術指標の検討、地域イノベーションに資する地域における主体間関係の分析等の調査研究等を実施。

①産学連携と大学等発ベンチャー等

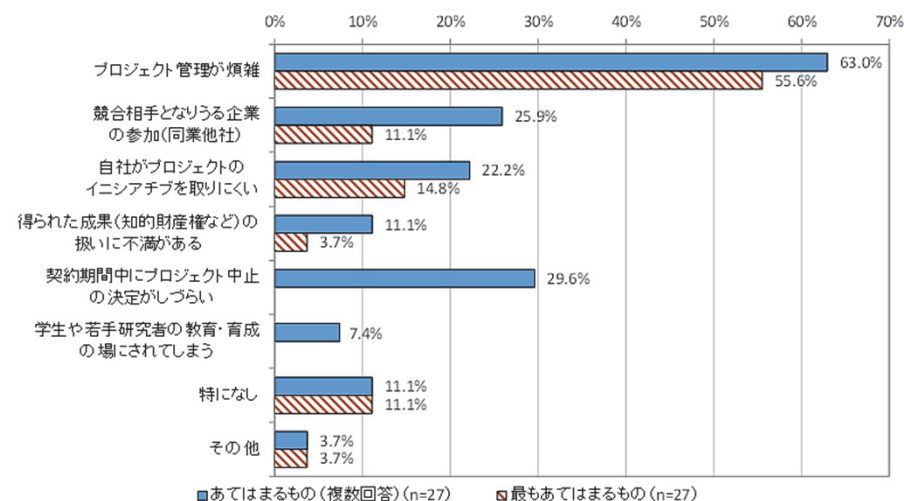
スピード感を持ち、機動的又は試行的に社会実装に取り組むポテンシャルを有する大学発等ベンチャー等ベンチャー企業の創出・育成、知的財産の社会全体での有効活用等を促進する産学連携の仕組み等の調査研究を実施。

▲ 大型産学連携のマネジメントに係る調査研究2017（DP-153）

国とのマッチングファンドのメリット



国とのマッチングファンドのデメリット



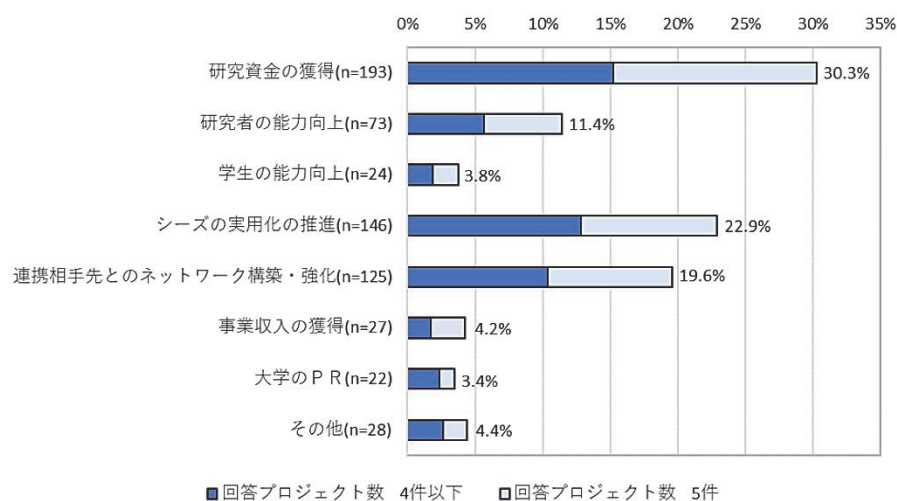
出典：新村、永田、科学技術・学術政策研究所「大型産学連携のマネジメントに係る調査研究2017」(DISCUSSION PAPER No. x x x, 2018)

①産学連携と大学等発ベンチャー等

▲ 鈴木、アンケート調査から見た国内大学等による国際産学連携の現状(DP-145)

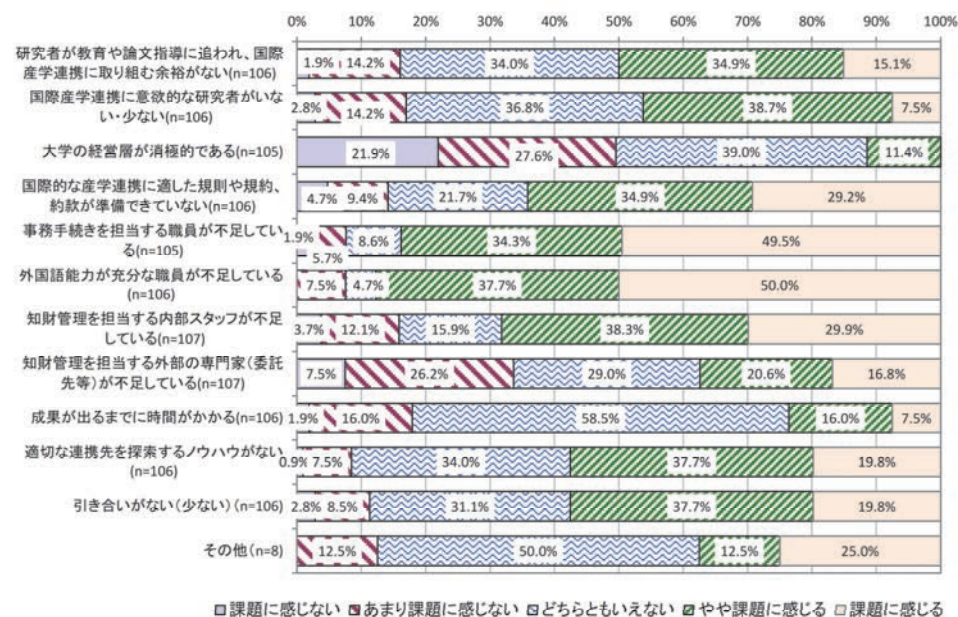
▼ 2017.05.30、日経産業新聞、「海外企業と産学連携13% 大学など、10年度以降、調整役が不足」

国内の大学等における海外企業との国際産学連携の目的(n=638)



出典：鈴木、科学技術・学術政策研究所「アンケート調査から見た国内大学等による国際産学連携の状況」(DISCUSSION PAPER No.145, 2017)

国内の大学等における国際産学連携に関連した事項への課題感



②イノベーション人材の流動

我が国の科学技術イノベーション人材の流動等とイノベーションに関する理論的・実証的な調査研究を実施。

▲ 一連の大学改革と教授の多様性拡大に関する一考察～研究者の属性と昇進に関するイベントヒストリー分析～(DP-144)

▼ 2017.05.11、朝日新聞、「女性研究者 低い教授昇進率」

イベントヒストリー分析結果：ゴンペルツ分布モデル

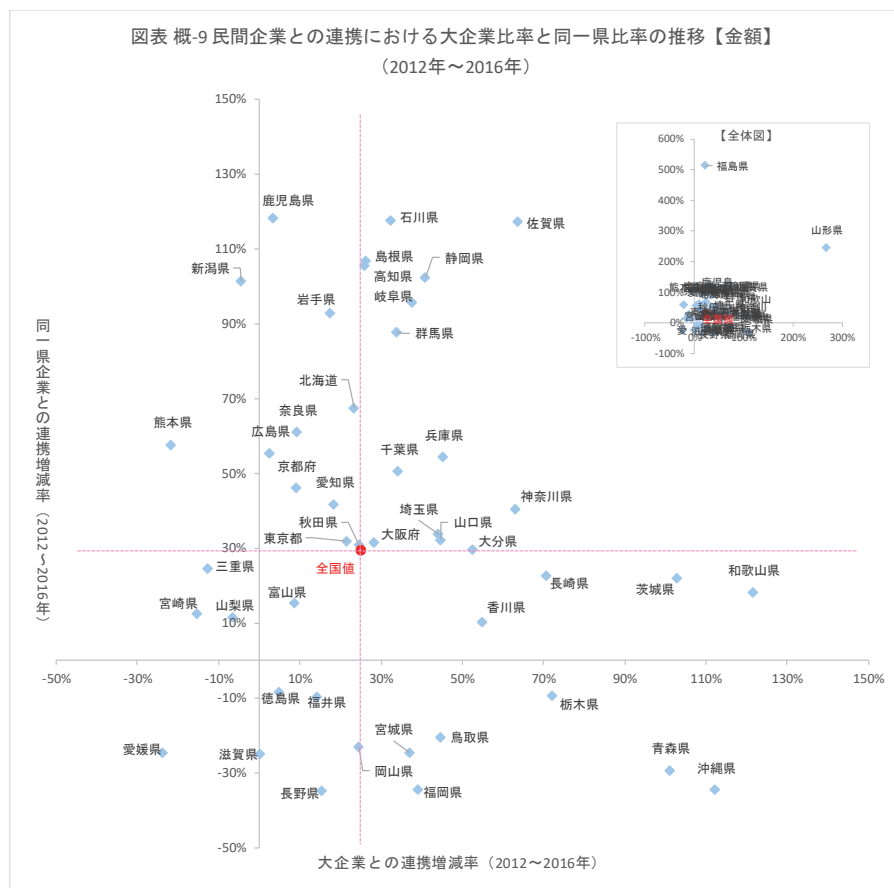
	人文社会学系	理工系	医学・生物学系
論文数	+0.9%	+0.7%	+1.0%
書籍数	+1.8%	+3.8%	+3.4%
競争的資金獲得件数	+4%	+5.2%	+10.2%
女性研究者	-19.1%	-49.6%	-29.0%

1. 論文・書籍の数は、教授昇進にプラスに働く
2. 競争的資金の獲得件数も、教授昇進にプラスに働く
3. 他の研究業績が同じ場合でも、女性研究者は男性よりも教授に昇進する確率が低い
4. 人文社会学系では、海外での学位取得は教授昇進にプラスに働く

出典：藤原、科学技術・学術政策研究所「一連の大学改革と教授の多様性拡大に関する一考察～研究者の属性と昇進に関するイベントヒストリー分析～」
(DISCUSSION PAPER No.144. (2017. 3))

我が国の科学技術イノベーション人材の国際的な流動等とイノベーションに関する理論的・実証的な調査研究を実施。

▲ 地域科学技術指標 2018（調査資料-278）



- ・産学連携活動の特徴の変化（5年間；**2012年～2016年**）を見ると全国的には大企業との連携増加率が**25%**、同一県企業との連携増加率が**29%**であった。
- ・都道府県の中で、同一県志向及び中小企業志向が強くなった地域は新潟県や熊本県だった。
- ・他県志向および中小企業志向が強くなった地域は愛媛県だった。
- ・大企業志向と他県志向が強くなった地域は沖縄県、青森県、栃木県、鳥取県、宮城県、福岡県だった。
- ・自治体数としては同一県志向と大企業志向が強くなった地域が最も多く、山形県が顕著に強くなっており、佐賀県、神奈川県、石川県など**15**府県あった。

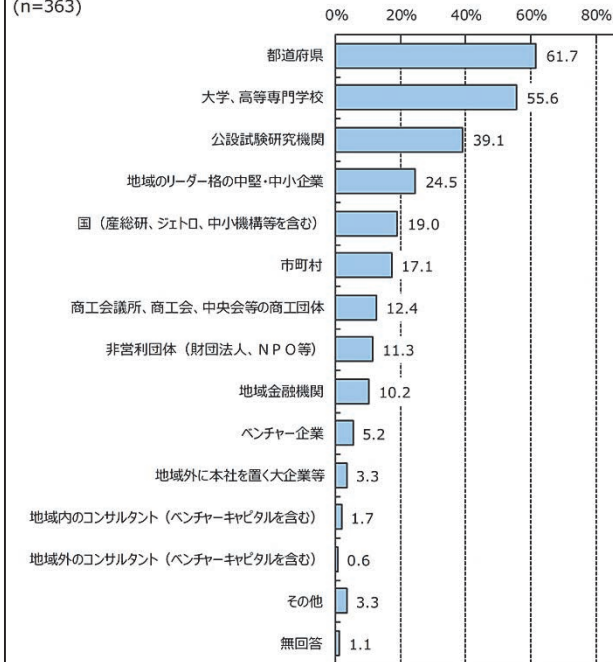
（出所）文部科学省「産学連携等実施調査」
2012年～2016年データをNISTEPで集計

③地域科学技術

▲ 地域イノベーションシステムに関する意識調査報告（調査資料-260）

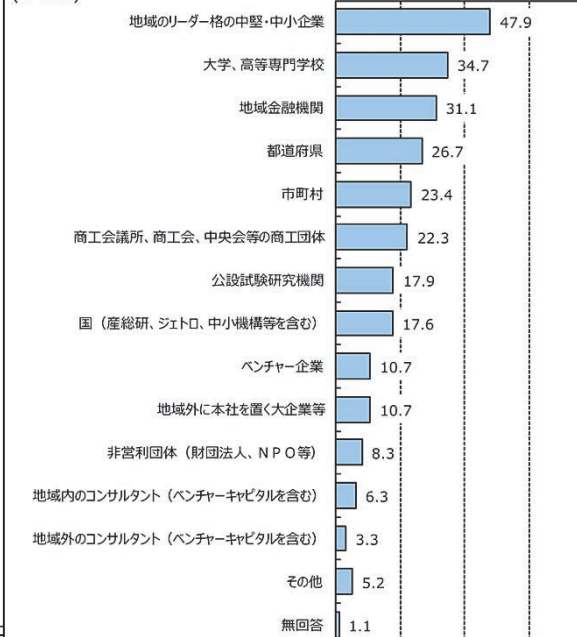
【Q12】貴地域（都道府県・政令市）において地域主導の科学技術イノベーションを実現していく際に、主にどの組織が連携の牽引役（とりまとめ役・調整役・旗振り役）となっていくべきだと思いますか。（最大3つまでお選びください。最重要な主体を1つお選びください。）【あてはまる組織（最大3つまで選択）】

(n=363)



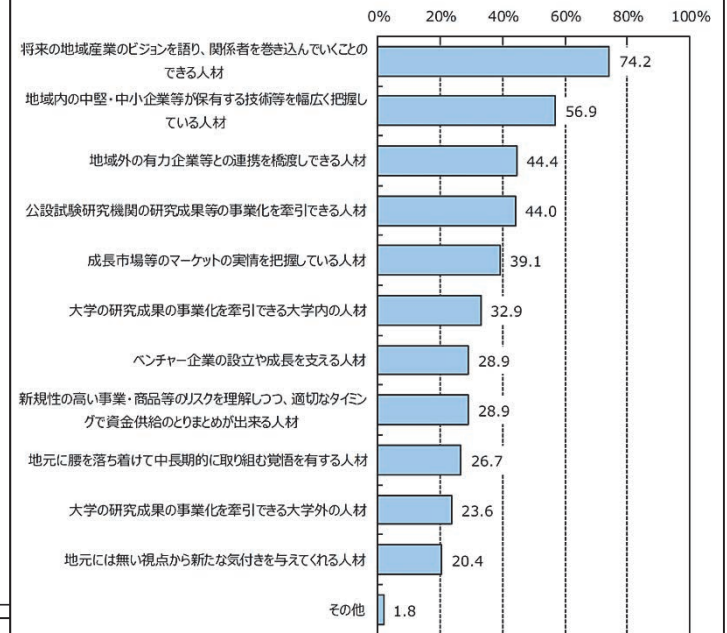
【Q11】貴地域（都道府県・政令市）において多様な関係者の連携をさらに高めていく場合、どの組織がさらに連携に参画していくことが重要になってくると考えますか。（最大3つまでお選びください。最重要な主体を1つお選びください。）【あてはまる組織（最大3つまで選択）】

(n=363)



【Q15】前問で「どちらかといえば不足している方だと思う」「不足している」と回答した方のみにお聞きします。貴地域（都道府県・政令市）では特にどのような人材が不足していると考えますか。（最大5つまでお選びください。最も不足していると考えた人材を1つお選びください。）【不足している人材（最大5つまで選択）】

(n=225)



出典：荒木、犬塚、科学技術・学術政策研究所「地域イノベーションシステムに関する意識調査報告」（調査資料-260）